

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社高梨ウェルビーイング		
事業所名	あつたかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪585		
自己評価作成日	平成28年3月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年4月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

静かな環境の中にある事業所で四季の移り変わりを感じながらゆったりと生活して頂いています。自然を感じながら散歩、日光浴をし、室内ではドリル、かるた、歌、体操、手芸等楽しい毎日を送っています。1人1人の出来る事をみつけ、お手伝い等もして頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの理念のほか、「敬う心と敬う言葉」をホームの大切な考えの一つとし、職員全員が共有し、利用者が安心して穏やかに生活できるように支援している。日々の支援では、冬の時期には感染症が流行しない様に感染症予防にホーム一丸となり取り組むほか、気候や天候の良い日にはホーム周辺の散歩や公園散歩、市役所の展示会、地域のお祭り、運動会、ドライブ、外食など定期的に外出計画を立て、戸外活動にも前向きに取り組んでいる。地域との関係についてもホームで実施する消防訓練の際には地域の方の参加もあり、災害時の協力体制を依頼する等、開設以来の良好な関係を継続している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人が理念とスローガンに基づき共有してサービス実践にあたっている。	ホームの基本理念のほか、スローガンとして「ゆったり、活いきあったかさん、敬う心と敬う言葉」を事業所に掲示し、住み慣れた町で安心して暮らし続けたいという、利用者の思いを大切に全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流は続いており、お祭り、催し物などの時必ず声をかけて頂いている。そして手作りの物等も持ってきて下さることがある。	ホーム近隣の住民の方とは、開設以来良好な関係を構築している。ホームで実施する消防訓練の際には地域の方の参加もあり交流を深めている。また、庭掃除や作品作りのボランティアの方の来所もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉行政に参加することもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にもとても協力的で生活の仕方、考え方等を参考にさせて頂いています。	会議には市の担当課職員、民生委員、近隣代表、家族代表の参加を受け、年に2回実施している。会議では、ホームの取り組みや避難訓練、感染症予防の取り組みについての報告や参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるよう取り組んでいる。	現状、運営推進会議の開催が年2階となっている事から、予め開催日時を決める等、計画的に実施し、開催回数が増加していく事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者、相談員の方々よりご意見や取り組み方を教えて頂いている。	市との連携に関しては、市の担当課職員が運営推進会議に参加され、意見交換を定期的に行うことができている。また、運営上の疑問点など、行政の判断が必要な際には確認し、指示を仰ぐことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない様努めている。	身体拘束廃止に向け、外部の研修に参加した職員がホーム内のカンファレンス時に伝達するほか、安全のためベルトを着用する際には「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」を毎年取り交わし、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう、日頃より注意している。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば家族と話し合いをするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前に書面を渡し、疑問点不安な点について説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはその都度状況を説明し、来訪時には要望を聞きながら対応している。	家族からの意見や要望については、運営推進会議や家族面会時に直接伺うようにしている。運営に関する意見は少ないが、家族等が意見を表明できる場を設け、いつでも表出できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを大切にし、働きやすい職場にしている。	管理者が日常的に職員に声をかけ、現状感じている事や不安に思うことなどを確認している。ホームでは毎月カンファレンスを実施しており、利用者の支援方針やケアプラン作成の際には職員の意見を踏まえ決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市等で行う研修は必ず受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議の時等、問題点などがあつたら相談させてもらっている。GH勉強会を復活させてもらうようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安なく入居することが出来るように、お茶の時間等に遊びに来て頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前、決定後にご家族の不安がなくなるよう説明や要望を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーさんとの話を伺いながらサービスの内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人は家族のような形で毎日を過ごして行きたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に家族・職員は共働きの形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人等が来訪しやすい雰囲気を作り、近所の散歩も欠かさないようにしている。	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様に、利用者の自宅付近をドライブしたり、家族の協力を得て馴染みの場所に外出する等、これまでの関係等が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・買い物・運動・ゲーム等、皆で楽しく行動できるように支援している。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時、退去後もしばらくの間は必要に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は家族と相談しながら不安にならないように努めている。	利用者の思いや意向については、日常会話からの収集のほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて現状や課題を抽出し、ケアプランに反映し、日々の支援に活かせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族からの話し等から、今まで過ごされてきた生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の心理状態、体調の変化に気づき、職員全員で協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聴取し、カンファレンスをし、短期・長期で計画を作成している。	ケアプランの作成にあたっては、アセスメントで抽出し結果に基づき担当者会議を開き、職員の意見を総合的に踏まえケアプランを作成している。ケアプランで掲げた目標に関しては、3ヶ月毎にモニタリングを実施している。	今後に向けては、主治医の意見等も確認し他職種連携でケアプランを作成できると良いであろう。また、ケアプランの目標期間についても認定有効期間に合わせて期間が取れると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康状態、心理状態を細かく記録し計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの毎日の生活を支えるための取り組みをしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・民生委員・ボランティアの方々に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの月2回の往診を基本に家族の協力により、かかりつけ医の通院も行っている。	ホーム提携先クリニックによる往診が月2回あるほか、利用者の急変時には救急搬送を行う体制とし、必要時に医療が受けられる体制を確保している。受診が必要な際には職員が同行を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ全員で医師の指示や服薬などの細かい注意点を相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も本人、家族に協力し早期に退院できるように相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し終末期等については、家族と話し合いチームで支援することとしている。	重度化した場合や終末期の方針については、ホームとして取り組めることを契約の段階で家族に説明し理解を得ている。入居中、利用者の状態が著しく変化した際には、主治医、家族、職員間において今後の支援方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症・急変時の高周波定期的に受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、救急、避難訓練などにも取り組んでいる。	災害に備え、火災を想定した避難訓練を年2回実施している。夜間の火災を想定した訓練も行うほか、地域住民の方にも参加頂き、災害時の協力を呼び掛けている。備蓄品についても完備しているほか、井戸水の設置も行っている。	災害に備え意識高く取り組んでいるが、今後に向けては、災害発生後に家族に利用者の安否をどのように報告していくか明確に出来ると良いであろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し「敬う心と敬う言葉」を大切に言葉かけや対応を行っている。	「敬う心と敬う言葉」をホームの大切な考えの一つとし、職員全員が利用者に適切な言動、行動が図れるように日頃から取り組んでいる。不適切な対応が生じた際には、その場で注意する等、きめ細かい対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康を第一に考え毎日を大切に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔第一と考え、身だしなみは整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー、買い物、調理等が少しずつ出来なくなっているが食事は全員が楽しめるようにしている。	食材の買い物も利用者をお連れし、一緒に食材を選んだり、可能な方には食事の配膳をお願いする等、極力利用者の参加を促し、職員と一緒に準備等を行っている。時には外食に出かけたり、ホーム敷地で栽培した野菜の収穫なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量、栄養バランス、水分量を考えている。ミキサー食(2人)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後3回口腔ケアを行いコップ、歯ブラシ等も1日1回消毒をしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のリハビリパンツ、オムツは○にしており、布パンツを使用している。(排泄チェックを行っている)	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄チェック表」に記入し、排泄パターンを職員間で共有している。日中は、定時の声かけや誘導により、トイレにお連れし、トイレ内で排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している方もいるが、食事、水分、体操等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧、体調によりその日の入浴を決めている。	利用者の体調を考慮しながら週に2~3回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき事故が無い様に安全に入浴できるように支援している。菖蒲湯やゆず湯などの季節風呂も行い、入浴の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何人かは昼寝をしている。よく眠れるよう運動、日光浴、散歩は毎日行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	細かい体調の変化、薬の量等を医師と相談し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは続けてやって頂き、少しでも体を動かし気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出られるよう支援している。	天候や気候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、食材の買い物で近隣のスーパー等への外出、お花見や夏のお祭り、外食、ぶどう狩り、散髪など、外出計画を立て、定期的に外出できるように取り組んでいる。	



あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいらっしゃいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等をされたい方は家族と相談の上支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風が入ってくる空間にしている。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮している。行事で撮影した写真や装飾品の掲示、生花を置いて生活感や季節感が感じられる様にし、居心地よく過ごせるような工夫を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方は日中ホールで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物を持ち込み居心地良く過ごして頂く。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、家具、好みのものを持ち込みを可能とし、清掃や整理整頓により清潔感を保ち、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を見つけ、自立した生活をして頂くよう見守っている。		